ふじの教育

令和６年度

2024

富士市教育委員会

目　　次

・富士市の位置…… 1
・富士市のすがた…… 2

Ⅰ　令和６年度 教育行政の方針及び施策
1　教育行政の方針…… 3
2　施策…… 5
⑴　方針１…… 5
⑵　方針２…… 11
⑶　方針３…… 20

Ⅱ　教育委員会と事務局概要
1　教育長・教育委員…… 27
2　歴代教育委員等…… 28
3　令和５年度教育委員会会議及び
教育委員研修実績…… 29
4　教育委員会の自己点検・評価…… 32
5　教育委員会行政組織機構…… 33

Ⅲ　令和６年度教育予算
1　歳出当初予算額…… 35
2　一般会計歳出予算と教育費予算…… 35
3　教育費当初予算額内訳…… 36
4　職員数…… 38
5　教育費決算額の推移…… 38
6　教育施設整備事業予算…… 38

Ⅳ　主要事業
1　明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進
⑴　ふじの教育懇談会…… 39
⑵　施設整備事業…… 39
2　学びを楽しみ、輝く子どもの姿を育成する学校教育
⑴　小・中学校…… 40
⑵　特別支援学校…… 62
⑶　高等学校…… 62
【（関連事業）幼稚園】…… 67
3　生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成
⑴　社会教育…… 69
⑵　図書館…… 74
⑶　少年教育…… 78
⑷　青年教育…… 81
⑸　青少年教育センター…… 83
⑹　青少年相談センター…… 85
⑺　少年自然の家…… 90
⑻　文化財の保護…… 95
⑼　博物館…… 103
⑽　教育文化スポーツ奨励賞 ……109

Ⅴ　資料編
1　富士市教育行政のあゆみ（略記）……110
2　富士市教育委員会委嘱の各種名簿……117
3　富士市の社会教育関係団体一覧表……124

市　　章

市民の木　くすの木

市民の花　バラ

富士市民憲章

富士に生きるわたくしたちは
歴史と伝統をうけつぎ　明日にむかって
豊かな産業と文化のまちづくりをすすめるため

一、富士山のように　広く
　思いやりの心をもち　たがいに助け合います
一、富士山のように　美しく
　自然を愛し　きれいな環境をつくります
一、富士山のように　高く
　教養を深め　視野のひろい市民となります
一、富士山のように　たくましく
　働くよろこびをもち　健康な家庭をつくります
一、富士山のように　強く　正しく
　きまりを守り　平和で安全な社会をつくります

（昭和五十八年十一月一日制定）

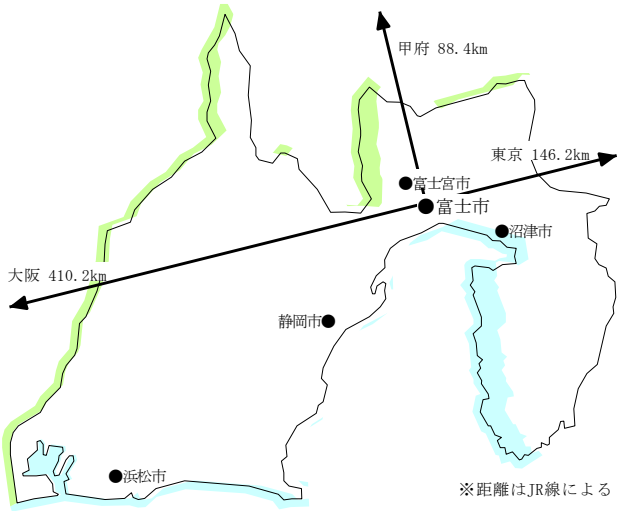
富 士 市 の 位 置

富士市は、「世界遺産　富士山」の広大な南麓に位置し、標高 3,680mの富士山９合目付近から南へ進むにつれ低くなり、日本最深の駿河湾に続いています。市の西部には、日本３大急流の一つである富士川が流れています。

鉄道は、東海道本線と東海道新幹線が東西を結び、身延線が富士駅を起点に山梨県までを結んでいます。また、市街地と市の東部地区を結ぶ岳南電車が吉原駅を起点に運行しています。

道路は、日本の東西を結ぶ大動脈である東名高速道路、新東名高速道路、国道１号が通り、これらが南に位置する田子の浦港や北の山梨方面へ続く国道 139 号に接続し、日本の物流において重要な役割を担っています。

県庁所在地の静岡市街へは約 34km、また、東京まで約 146km、大阪まで約 410km の位置にあります。西は静岡市（政令指定都市）と富士宮市、東は沼津市、長泉町、裾野市、御殿場市と接しています。



広がり	東西　23.2 km 南北　27.1 km
面積 人口 世帯数	244.95 km² 247,077 人 111,435 世帯

令和６年５月１日現在

富 士 市 の す が た

「田児之浦従　打出而見者　真白衣不尽能高嶺爾　雪波零家留」と、万葉の歌人、山部宿祢赤人にうたわれた富士市・・・

歌川広重　『東海道五十三次』　吉原　左富士

富士市の起こりは古く、６千年ないし７千年前から人類が住んでいたことが、市内に点在する縄文時代の遺跡、古墳群等によって分かります。

鎌倉時代に、源頼朝は要路政策により、現在の田子の浦港の東に「見付」をつくりました。

その後も「見付」は吉原湊（現田子の浦港）を控えた交通の要衝として、戦国大名（今川氏、北条氏、武田氏）の保護を受け、大変にぎわいました。「見付」が「吉原」と改称されたのは４百年くらい前と推定されております。江戸時代には東海道五十三次の宿場「吉原宿」として、景勝「左富士」とともに旅人の心を癒してきました。

明治維新とともに、地域の経済及び生活条件も大きく変わり、「吉原宿」は宿場としての使命をなくし、衰退のきざしを見せました。そこで先覚者たちは植樹、茶業、養蚕、あるいは「駿河半紙」の伝統を生かし、製紙業を興しました。中でも製紙工業は富士山麓から湧き出る豊富な地下水と富士山麓の森林資源によって発達し、全国一の“紙の都”といわれるまでに成長しました。

都市形態も、昭和４年以降数回にわたる隣接町村との合併を重ね、昭和 41 年 11 月 1 日に吉原市、富士市、鷹岡町が合併し、新生「富士市」が誕生しました。また、平成 20 年 11 月１日に富士川町と合併し、現在静岡県で第３の人口を有する市となっています。現在、人口は 247,077 人（令和６年５月１日現在）、事業所数は 11,310 事業所（令和３年経済センサス活動調査）、年間製造品出荷額等は１兆 3,550 億 8,292 万円（令和３年経済センサス活動調査・従業員数４人以上）で、県内第５位の工業都市として発展を続けております。